
あの夢を見たのは・・・いつだったっけ？

心乃 真架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの夢を見たのは・・・いつだっけ？

【Nコード】

N4645Y

【作者名】

心乃 真架

【あらすじ】

組織に追われていた少年少女たち。いつしかこの少年少女たちは互いに支えあうようになった。：内容が変わったらゴメンナサーイ！！

プロローグ（前書き）

初めまして^^

プロローグ

あの日、私は言葉を聴いた。

その声は酷く細い声だった。

その声は私に言ったのだ、ただ伝えるために。

「あなたの…あなたはここに居ては駄目。逃げなさい！！私の二の舞になるのは駄目よ」

私は静かに目を覚ます。

その声を今も忘れられないのは何故？

その声の持ち主は…思い出したいくてももう思い出せないのだろう、きっと。

私の記憶はあそこに置いて来てしまった。

6歳〜9歳までの記憶は私にはない。

そして、母親と父親の事も覚えていない。

覚えているのは、3歳ごろから6歳の誕生日の日までと9歳と7ヶ月になってからの記憶…。

それから、顔も覚えていない少年の顔。

このまま寝ているわけにもいかない。

目を覚まして、高校の入学式へと向かおう

この夢を追い払うために…

私はベットから出て顔を洗いに洗面所へ向かった

あの夢を頭から洗い出すかのように。

プロローグ（後書き）

この続きもぜひ読んでください！！
お願いします。

電話（前書き）

頑張って書きます。

短くてすみません←←

電話

今日は入学式…。

私は6…00に目が覚めたので朝ごはんをのんびりと作っている。アパートに独りで暮らしていると、音が物足りない。

目玉焼きとベーコン、サラダ、バタートーストをお皿に乗せると電話がかかってきた。

ケータイの画面にはあの子の名前。

珍しく6…30に目を覚ましたらしい。

自慢の電話でも来たのだろう。

・・・でないとうるさいだろうな。

「・・・おはよう。どうかしたの？」

ああ、きつと自慢でもしてくるのだろうな、と思っていたが驚くことに違った。

『千乃……。今日って何時に集合だっけ？』

「また……。？7…40にミレーニアの家の前」

そう。電話の相手はこのミレーニアと言う少女。私の親友だ。

そして私は千乃^{ちの}。

ミレーニアは

『あっつ。そうだった。ありがとう。後でね。』

と言ってケータイを切る。

後ろからミレーニアのお父さんの声が聞こえてきたから、これから探偵の仕事に行くのだろう。

さて・・・朝ご飯を食べよう。

すると再びケータイは鳴った。

電話（後書き）

千乃・・・短すぎない？

真架（作者）・・・す・・・スイマセン！！

ミレーニア・・・まあまあ。真架も2作品連続投稿で疲れてんだよ。

真・・・ミレーニア！！いい子だね！明日も忙しいのにがんばって書いてんだよ！！

千・・・言い訳じゃん。

真・・・グハッ！！

千・・・ツハ！！また性格が寝起きに戻ってた。

ミ・・・ほら、真架に謝ったときな。

千・・・ごめんね。真架、頑張ってたね。投稿しなかったら怒るけど！！

真・・・ヒィー！！なるべくしますから！

千・・・なら良いけど。

ミ・・・今回のお話を読んでいただき

千・・・本当にありがとう。

真..次回も

ミ・千・真..よろしくお願いします。

a g a i n ← ← (前書き)

こんにちは^^

真架なのであります!!

どうか楽しんでいただけると言いのですが・・・。
それでは、どうぞ

a g a i n ←←

再びケータイが鳴った。

ケータイの液晶画面にはミレーニアではない名前が出ていた。

「次は彩我か……。ハァ……。」

私は短くため息をついた。

彩我さいがは男だが親友だ。

ミレーニアと彩我と私の3人は中学でもつるんでいた仲間だ。

そしてリシレという組織の仲間でもある。

とりあえず……。電話に出てあげよう。

「……。お早う。どうかしたの？」

『千乃……。今日って入学式じゃん。今ね、任務があるから今日の12時にミレーニアのお父さんの探偵事務所に来てって連絡が来てさ……。それまでに学校終わると思う？』

こいつもちゃんと人の話し、聞いてたのか？

昨日言ったじゃん、何時に学校終わるか。

「それって回すの？ってか終わるよ……。昨日言ったじゃん。11時前には学校終わるって。」

『そっか……。良かった。えっとねえ、千乃が最後だから大丈夫だよ、回さなくて。』

「あっそ。じゃあね」

『おう!!』

もう1度、次は深くため息をついて私は食事を再開した。

食べ終わって食器を洗い終えて時計を見ると7:02だった。

待ち合わせ場所までは3分でいける。

着替えて……。本でも読もう。

本が12ページ進んだとき、再びケータイが鳴った。

7:35にセットしたアラームだった。

制服で家を出て鍵を閉めた。

近所で咲いている桜たちは散っているのに笑っているようだった。
待ち合わせ場所にはちゃんと3分で着いた。

先に彩我が着いていた。

「おっ！千乃、お早う。実は俺、時間間違えちゃって35分に着いちゃったんだ。」

寝起きだと口調（たまに性格も）が違う私はもう通常に戻っていた。
「それはドンマイだね。あれ？もう41分なのにミレーニア来ない。
チャイム鳴らす？」

そういうと目の前の家からミレーニアが出てきた。

「ごめん。時計見たら41分で・・・。」

ミレーニアらしいという意味をこめて笑った。

「ふえっ。何で笑うの？それより行こうよ」

ミレーニアが歩き出したので、私が彩我はそれを追って学校へ向かった。

a g a i n ←← (後書き)

彩我…初めまして。彩我だよ^^

真架…今日は雑談しないんだけど。

彩…マジで!!じゃあ、何やるの?

真…プロフィール。

彩…俺の?良し来た!!俺は・・・

真…違うし!! 勿論千乃のだよ!!

名前⇒近江 おつみ 千乃 ちの

見た目⇒髪の毛と目の色はスカイブルー、髪型はセミロングで前髪を作っている。

癖⇒何かを我慢するときに首に手を添える。

身長⇒162cm

体重⇒48kg

誕生日⇒5月14日

能力⇒雷・空間魔法

武器⇒弓矢(いつもはネックレスの中に魔法でしまっている。)

真…こんな感じじゃない?まだ能力は使っていないけどね。

彩…それなのがいいの?こんな風に発表しちゃって。

真…気にしない!!私は気にしないからいいの。それより・・・読

んでくれた人にお礼を言おうか？

彩…了解！！これを読んでくれた皆。ほんっとうに有難う！！

「先・・・輩」(前書き)

さらに2人新しく登場します。
みなさん、温かい目で見てください。

「先・・・輩」

学校に着くと、クラス表がはり出されていた。
8クラスまで書いてあるのがなんとか見える。

8クラスにわかれる・・・という事は同じクラスになれるという可能性は少ない。

クラス表がはり出されている門の近くには人が群がっており、名前がどこに書いてあるのか見えない。

「千乃、ミレーニア、彩我！」

男性の声が千乃の背後から聞こえた。

振り返ると見慣れた男女の学生が居た。

彩我はその男女に

「あっ！！ペトラとひな」

といった。一応みんなには言っておくが・・・相手は先輩だ。

「彩我・・・一応俺たちは先輩だからな」

ペトラと呼ばれたのが答えた。

ペトラ・サンクルが彼の名前だ。

ひなと呼ばれた女の先輩は

「3人とも一緒のクラスだから・・・。リシレからの要望でね」

と言った。ひなは私よりも目線が下である。

イコール、身長が低い（のが特徴的である）。

ひなは真田さやまだ ひなと言う。

ペトラは彩我に

「ほら、言ってみろ。ペトラ先輩」

と、教育中。

「ペトラ先・・・先・・・ぱ・・・い」

何か抵抗があるらしい。

「ひな先輩とペトラ先輩も同じクラスなんですか？」

ペトラは先輩と呼ばれてニツと笑った。（性格には口角を上げた・・・

・と言わなきゃだろ（うか）

「彩我、千乃はちゃんと先輩って呼んだぞ。エラ・・・」

「ペトラ・・・うるさい。ペトラと私は同じクラスよ」

ミレーニアはペトラに励ましにならない励ましをしていた。

「ペトラ先輩。大丈夫だよ。彩我は同じ歳くらい若く見えるっていう意味で“先輩”って呼べないだけだよ、きっと」

・・・ミレーニア。それって童顔ともとらえられるし、1年の差だから普通っちゃ普通。

ってかお前もタメ口かよ!!

「ペトラ先輩・・・輩」

彩我がペトラを呼ぶ。

さっきよりは詰まっていらない。

ペトラは彩我のほうを向く。

「俺たちって何組か・・・知ってます？」

彩我はちゃんと敬語を使って喋った。

ペトラはあからさまに嬉しそうな顔をして答えた。

「階段から一番近い4組」

1組の隣はコンピューター室で玄関から遠いらしい。

5組の隣はトイレ。8組の隣は美術室。

「しかも、屋上への階段もある。5階だしな」

ココは5階建ての学校だ。

ペトラの言葉にミレーニアが聞いた。

「さすがに学校にあいつらが来ても空からはきませんよねえ」
その言葉に一同は動きを止めた。

「先・・・輩」(後書き)

スイマセン!!

約束守れません。

今回は時間がないため、プロフィールの紹介は無理そうです。

運命とは、時にして・・・(前書き)

テストが終わって安心して更新できます。

今まで更新できなかった事をお詫び申し上げます。

スイマセンでした。

これからはドシドシ更新していこうと思います。

運命とは、時にして・・・

沈黙が続くと予鈴がなった。
それから2時間ほどたった。

入学式の間はボーっとしていたので正直、覚えていない。
今、私とミレーニア、彩我は探偵事務所に向かっていた。
探偵事務所へは電車に乗る。

約10分ほど揺られる事になる。
到着した駅には11時00分に着いた。
そこで彩我は口を開いた。

「探偵事務所へは・・・あと10分歩くんだよな。昼飯はどうする？」

ミレーニアは

「ココで先にオムライス!!」

彩我は

「探偵事務所で出前を頼む」

私は

「お任せ!でもセロリは却下!」

見事にバラバラだ。私以外の2人はじゃんけんで決めようと言った。
私はお任せなので2人がじゃんけんをする。

ミレーニアの合図で始まる。

「最初はグー!じゃんけんポンツ!!」

・・・気合を入れてあいこだとショックが大きい。
何でこの話をするかと言うと、ミレーニアはパー。
彩我もパー。

「あ・・・あいこ←←・・・よし!もういっちょーあいこでしよ!」

ミレーニアはチョキ。

・・・彩我はパー。

「おっしやああああ!!」

と言ったのは何故か彩我。

普通はミレーニアの台詞・・・のはず。

それに気づいたのは3秒経った今。

「アレ!? 負けてる。負けたー!」

とギャンギャン騒いでいる。ミレーニアは

「オ・ム・ラ・イ・ス☆」

とニコニコ笑っている。(そんでもって歌っている)

ミレーニアは私を見て、満面の笑みを見せ、言う。

「うちの大好きなお店へGO☆だよ」

と歩き出してしまった。私の腕を引っ張って。

「ココ!! 『sea said』ってお店で、食後は千乃の大好きなジャスミンティーと彩我の大好きなフォンダンショコラもあるの! オムライスも絶品*」

駅から7分程歩いた所があり、洒落ている。

あまり目立たない風だ。

ドアを開けると女のウェイトレスさんが(6人がけ)席に案内してくれた。

その2つ先のテーブルには・・・

「アレ?! ひな。ペトラ。と・・・誰?」

上の文章の通り、ペトラとひな・・・それからもう一人の男子生徒。

その男子生徒は私の顔を見て驚いた表情を浮かべている。

私は後ろに誰かいるのかと思い、そつと振り返ってみた。

誰もいない。

でも、私の心臓は私が気づかないほど速くなっていた。

あなたは誰・・・?

運命とは、時にして・・・（後書き）

真架…今回はミレーニアの紹介をします。

ミレーニア…やっただよう！！ぶーー！！早くしましう！！

真…それでは！！

名前…志田^{した} ミレーニア

身長…156cm

体重…45kg

誕生日…1月30日

見た目…金髪で目の色は茶色 笑顔になるとえくぼが出来る ハーフ
能力…風・過去を見る事ができる（自分が関係のないものだけ）
武器…ムチ

その他…お父さんがリシレの幹部・・・っぽい

真…みたいなの？

ミ…詳しくはそのうち分かるんでしょう？それまでお付き合いして
いただけると嬉しいです。

真…それでは！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4645y/>

あの夢を見たのは・・・いつだっけ？

2011年12月3日17時46分発行